

令和8年度第2回白井市介護保険運営協議会 会議録（要点）	
1. 開催日時	令和8年9月30日（水曜日） 午後1時30分から午後3時まで
2. 開催場所	東庁舎3階 会議室303・304
3. 出席者	瀬野会長、岡本委員、福岡委員、金子委員、海老原(佳)委員、渡辺委員、坂巻委員、中島委員、海老原（賢）委員、野口委員
欠席者	青龍委員、松本委員、石田委員、吉田委員、根本委員
事務局	福祉部 村越部長 高齢者福祉課 山口課長、 介護保険係 中原係長、高橋主任主事 地域包括ケア推進係 加藤係長 (株)ちばぎん総合研究所 2名
4. 傍聴者	0人
5. 議題	第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画（案）について（公開）
6. 議事	以下の概要のとおり
【事務局】	○欠席委員5名。白井市介護保険条例施行規則第60条第2項の規定により、過半数に達しているので会議を開会する。
【会長】	○会議は、原則公開とする。 ○会長あいさつ
	議題に入る前に、第1回会議にて回答保留とした内容について説明
【事務局】	（資料1説明）
【会長】	質問、意見はあるか。（特になし）
	議題 第10期高齢者福祉計画・介護保険事業計画（案）について
【事務局】	（素案1～3章・資料2説明）
【会長】	質問、意見はあるか。
【会長】	P3の多くの数値が●（未確定）となっている一方で9行目は4, 406人と明記されているのはなぜか。
【事務局】	4, 406人は令和22年の推計値であり既に発表されているものである。 一方で●の箇所は2025年国勢調査の数値であり、確定値が未発表のためである。
【会長】	介護人材実態調査の回収率が6割にとどまっており事業者向けアンケートとしては低いように感じるがいかがか。
【事務局】	市としてもできる限りのアプローチは行ったが現状にとどまっている。
【委員】	なぜ6割にとどまっているのか、理由は何か。
【事務局】	調査の趣旨が十分伝わり切っていなかった側面があるかもしれない。
【委員】	調査の趣旨として、本調査は現場を改善するために実施しているため、その旨を明記して依頼してはどうか。事業所に十分伝わり切っていないのは残念であ

	る。
【会長】	今後の課題について総括しているのは分かりやすい。 一方で9期までの計画と構成や順番が大きく変わったため比較しづらい。これまでの会議でもエレベーター問題を長らく議論してきたが本計画には記載されておらず、前期とのつながりが弱いように感じる。意見として、白井市の住宅事情を必ず盛り込むべきだと考える。
【事務局】	検討する。
【会長】	P46の地図はP57の地図と同じものが入るのか。
【事務局】	日常生活圏域を示す地図を挿入予定である。
【事務局】	(素案第4章 基本方針1・資料3説明) 質問、意見はあるか。(特になし)
【事務局】	(素案第4章 基本方針2説明)
【会長】	質問、意見はあるか。
【会長】	ICTを活用した取組みはすでに実施されているのか。
【事務局】	在宅での生活を支援する訪問診療医やケアマネージャー等、関係者間のスムーズな情報共有を目的としたシステムを活用している。さまざまな用途で利用しており、利用登録者は100名程度と把握している。
【事務局】	(素案第4章 基本方針3説明)
【会長】	質問、意見はあるか。
【委員】	63ページの認知症の理解を促進するイベントの開催について、具体的に教えてほしい。
【事務局】	イベントは以前から実施しており、毎年9月の世界アルツハイマー月間に合わせて市役所ロビーに認知症の理解を促す掲示やチラシを配架している。これまでの取り組みに、新しい認知症観についての周知を加えることを想定している。また、人が多く集まるふるさと祭り等への出店などの新しい試みも検討している。また、市民向けの講演会の開催も予定している。
【会長】	P61の表(全国)とP62の表(白井市)を比較すると、白井市のほうが認知症高齢者の割合が多く見えるが理由を説明してほしい。
【事務局】	確認し、次回会議で回答する。
【事務局】	(素案第4章 基本方針4説明)
【会長】	質問、意見はあるか。
【委員】	補聴器助成は良いと思う。印西市ではすでに助成があり白井市に無いのは残念だという声を耳にしていた。 介護支援型短期宿泊事業について、介護認定を受けていない方はどれくらい利用しているのか気になった。

【事務局】	今年度の利用実績はゼロ人であるが、例年利用される理由として最も多いのは高齢者虐待の緊急避難対応である。
【会長】	P70ページの外出支援について、白井高齢者等外出支援サービスは現行のサービスとしてあると思うのだが、記載しないのか。
【事務局】	令和6年度に制度の見直しが実施され、白井高齢者等外出支援サービスは廃止された。代替として福祉タクシーの拡充が行われている。
【会長】	こうした制度変更を含め、利用者にもっと周知したほうが良いと思う。平等なサービス提供のために、インターネットを利用しない65歳以上の高齢者に対する周知の方法は常に考えるべきである。
【委員】	P73ページの災害・感染症対策の推進について、今回の豪雨や台風25号では白井市もレベル5が発令された。高齢者避難について課題が見えてきた部分や対応について教えてほしい。
【事務局】	配慮が必要な方を受け入れる福祉避難所の協定を介護施設と締結しているが、発災時の対応の詳細について詰められていないのが課題である。今年、市では福祉避難所における模擬訓練を企画しており、協定を締結している施設に訓練の参加を呼びかけている。訓練を通じて、新たな課題が見えてくると思うので、引き続き体制を整えていきたい。
【事務局】	(素案第4章 基本方針5説明)
【会長】	質問、意見はあるか。
【委員】	10期計画の地域共生社会の推進に関して、在宅医療・介護連携の推進のICTとはバイタルリンクを指しているのか。次に、在宅医療後方支援体制の充実について、何をもって充実と掲げているのか。
【事務局】	1点目、ICTの活用による情報共有はバイタルリンクを指している。活用している方からはとても有効だと聞いており、更に多くの医療・介護関係者に普及を進めていきたい。 2点目、在宅医療後方支援体制の充実については、訪問診療を実施している市内診療所の患者が、入院加療が必要になった際、市内の3か所の病院にスムーズに受入れができるよう協定を締結している。課題として、市内で長年にわたり訪問診療を行っている先生は制度をよくご存じだが、新規参入された先生についてはさらにアプローチが必要と考えている。
【委員】	バイタルリンクは5年前から20人しか利用していない。また、半年に一度患者情報を更新しないといけないが、一部を除き全く更新されていないので、救急要請があった場合に白井の3病院でほとんど受入れ実績がないのが事実である。市で利用者たちを集めた会議を行っているか。
【事務局】	市内の3病院の先生、クリニックの先生に年1回集まってもらい、実績報告等を行っている。実績については市内の患者が増えている割には利用が少ないのは事実であるため、さらに普及させていきたい。
【委員】	在宅医療・介護連携の救急医療キットについて、担当している利用者に説明して渡すようにしているが、本来のケアマネジャーの業務ではないため正直負

	担である。キットは、情報を更新する必要があるが、なかなか高齢者自身ではできないのが実態である。
【会長】	救急医療情報キットの利用について、救急隊や医師会の会合の機会を設けるなど、啓発に向けた対応も考えられると思う。
【事務局】	救急医療情報キットについては、年1回定期的に救急隊員と地域包括支援センター職員による情報交換の場を設けている。救急隊員も現場でタブレットを用いてマイナカードを読み取ることができるが、得られる情報は限定的であり、むしろ、救急医療情報キット内に記載されている緊急連絡先等の情報が有用なため、更に普及推進をしていきたい。
【会長】	他になければ、以上で会議を終了とする。 －閉会－